

令和7年度第2回岡山市総合教育会議

日時：令和7年8月22日（金）

場所：市庁舎 第3会議室

午後3時30分 開会

○司会 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第2回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、市長、教育長及び3名の教育委員のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望があった場合は、入室を許可してよろしいでしょうか。

○市長 はい、よろしくお願いします。

○司会 傍聴者の入室を許可します。

それでは、協議事項に移ります。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。

市長、よろしくお願いいたします。

○市長 はい。皆さんこんにちは。

それでは、早速協議に入ります。

まず、本日の協議事項は、第3期岡山市教育大綱の方向性についてであります。

今日は今年度第2回目になるわけですが、今日を入れてあと一、二回で絞っていかねばなりません。よろしくお願いいたしますと思います。

学校現場における取組、ご提案など、幅広いご意見をいただくため、岡山市中学校長会の服部会長、そして小学校長会の安東会長にもご出席をいただいております。

では、協議事項、第3期岡山市教育大綱の方向性についての資料について、教育長から説明をお願いいたします。

○教育長 はい。それでは、失礼します。

本日は、1枚目の資料に示しているとおり、次期教育大綱の方向性について、教育委員会事務局からたたき台を提案し、皆様にご意見をいただくことにしております。このような機会をいただきまして感謝申し上げます。

それでは、早速ですが、資料について説明をいたします。

資料①をご覧ください。

ここでは、教育大綱は何のためにあるか、策定の目的と意義についてまとめています。

教育委員会としては、近年の教育行政において、地域振興や福祉など一般行政との協働が必須となっており、市長が大綱を策定されることで、広い視野で総合的、効果的に施策を推進することができ、大綱を掲げることで、教育委員会と学校が目標を共有し、一体となって、より強力に取組を進めることができると考えております。大綱策定においては、まずは岡山市約3,900人の教職員に取組を理解していただき、浸透させる必要があります。

そのため、策定におけるコンセプトとしては3点示しております。一つ目は、シンプルで分かりやすい、二つ目は、具体的で取り組みやすい、三つ目は、取組の成果が見えやすい、このコンセプトに従って、策定に向けた協議ができればと考えております。

次に、2ページ目、資料②をご覧ください。

先般5月22日に開催された第1回総合教育会議における参加者のご発言やキーワードから、これからの岡山市の子どもたちに必要な教育、子どもの成長の様子をイメージ図に起こしたものであります。

資料②の左側、これからの岡山市の子どもたちに必要な教育では、仲間と協働して課題を解決すること、直接的な体験活動、地域社会のために何かしたいという態度の育成などに加えて、基礎的な学力も必要であるというご意見をいただいております。また、子どもたちの学びを変えるためには、当然、教員の意識改革や若手教員の育成にも取り組む必要があるというご意見もありました。

資料②の右側になりますが、子どもの成長の様のイメージについては、人格の完成、アイデンティティーの確立、社会的自立のためには、まずは家族に愛されるということが根本にあるということ、地域を知り地域を好きになることで夢や目標を持ち、自分に誇りを持って自分の役割を自覚していくのではないかとご意見がありました。義務教育段階では、点線で囲った部分、人としての土台というか根っこ部分、これをしっかり育んでいけるようにしていきたいと考えております。

次に、3ページ、資料③をご覧ください。

第1回総合教育会議での皆様からのご意見や昨年度の総合教育会議における現行の大綱の総括を踏まえ、次期大綱の方向性の大きな枠組みの案を提案します。

資料左側に示した第1期・第2期教育大綱は、喫緊の教育課題を取り上げ、その解決を目標に掲げる課題解決型の大綱でありました。その目標についてはおおむね達成している

ことから、次期大綱は未来志向型の大綱とし、目指す教育「樹人」は継承、これからの岡山っ子に必要なこととして基礎的な学力の定着も継承、不登校等の課題については教育振興基本計画に位置づけて取組を推進するとし、新規に、様々な議論を踏まえ、岡山市に必要な教育を掲げるのはいかがかと考えています。

まずは、3ページの資料③について皆さんのご意見をいただきたいと思います。市長、よろしくお願いします。

○市長 ありがとうございました。

それでは、岡山市教育大綱の方向性などについて、ご出席の皆さんから意見をいただきたいと思います。

実は私、当然ながら第1期の最初からずっとこの話をやっているのですが、個人的な感想でありますけれども、第1期の議論で、学力の問題にしろ不登校の問題にしろ、同じなのですけれども、どうすれば改善できるかということを随分話をしました。そうしてみると、原因の一つ、それも大きな一つとして、個人個人の先生が独りぼっちになっているのではないかという話題になったのですね。

先生ってのはやはり人格的にもすばらしいものを要請されるし、一人が三十何人の子どもを受け持つ。みんなやはりそれなりに一人一人が子どもたちをいのように成長させようっていう使命感が非常に強い。通常の職場と違ってそれが独立している、そこに問題があるのではないかと。独立するっていうのは、その人に任せるということになって、どれだけ優秀な人間でも、一人に任せていくと、その人たちは不安にさいなまれますし、経験がない、特に岡山市の教育現場におられる方は若い人がすごく多かったということもあって、なかなか一人では子どもたちをうまく成長させられないっていう要素も出ていたと思います。

そこで、まずはベテランの先生、典型的には校長先生ですけれども、校長先生とかそれに準ずる先生方に若い先生の授業を見てもらう、週に何回か定量的に決めて見てもらうということをやってもらったのですね。それとともに、教育委員会の人たちに学校へ行ってもらって、そういった動きなどをチェックって言ったら少し違うかもしれませんが、校長さんとか若い先生と話してもらう、それが通常の職場でいう上司の指導、また経験者のアドバイスっていうところにつながって、私はそれが大きく改善したのではないかなというように思っております。

そこは達成しましたと、2期のときにどうするかということで、我々は別に偏差値教育

をやるわけでもないし、ただ、子どもたちにはより成長してもらいたいということで、今の時代の時代背景といいますか、それを分析していくと、高度経済成長のように一つの方向性をみんなで追うというわけには多分いかないだろうと。そして、それぞれがいろいろなことを経験していく、失敗することもあるだろう。その失敗があれば、もうやめてしまうというのではなくて、何度も挑戦するような、そういう粘っこいといいますかね、そういった子どもにできないかという言い方は若干語弊がありますがけれども、そういう成長をしていただけないかというように思ったわけであります。

ここでは目標をおおむね達成しているという、これK P Iはすごく難しいので、私は本当に達成しているのかどうかもよく分からないが、1期目のときの達成感に比べると、2期目は何かぼやっとしているなという感じが率直なところいたします。考えていたことは決して間違いではないと思うのですが、自分なりに時々、これでよかったのかなと思うようなことがある、これが私の今の率直な感じであります。3期目の大綱というのは、考え方はある程度、踏襲していきながらも、子どもたちが行こうとする方向性などもう少し明確なものを提示できると、子どもたちを導けるのではないかなと思っているところであります。

私の今の率直な感じを述べているだけなのですが、そういう面では、今日の校長会の会長さんも長い間教育に携わっていただいているので、私が今申し上げたようなことを踏まえて、教育長が説明したことに対しての話ないしはそれに関連する話等々をまずは述べていただいて、それから委員の皆さん方のご意見を聞かせていただければというように思っています。

では、服部さんからお願いします。

○服部中学校長会長 中学校長会長、服部でございます。よろしくお願いいたします。

今市長がおっしゃられたことについてですけれども、以前申し上げたとおり、私は第1期の策定のときに事務局で関わった者として、目標が明確であったこと、それから指標を示したこと、このあたりがすごくやはり大きかったなということと、結果どうなったかという、現場の特に校長先生方の意識が大きく変わったというところは肌で感じました。本当に、やらされ感なく、必要感を持って校長先生が教室を回られている姿、さらには若手からの質問に応じている姿であるとか、そういう姿がほとんどの学校で見られるようになったということは非常に大きいなと。その流れは実は今も続いていて、私自身の中にも、まず今日のスケジューリングをするに当たってこれとこれとこれをしなきゃいけな

い、でも空いている時間が2コマほどあったら、その時間は優先的に何年生を見に行こうと意識しています。そのところがやはり第1期から第2期の流れの教育大綱の非常に大きい成果の一つではないかなと思います。

それから、私自身は問題行動のほうに携わっておるので、不登校がなかなか減らないというのは実感として思っています。ただ、教育の機会確保法という法律が施行されて、岡山市も夜間中学が開校したりする中で、それぞれの子どもさん、大人も含めて、学び続ける人を育てていこうという雰囲気は岡山市の中にできているのではないかなと感じていて、これも大綱に位置づけられたことに非常に意味があるなと感じています。

最後に、第3期に向けてですけれども、ここに同席させていただくことは非常に私もうれしく思っております。ただ、3ページ目にあった未来志向型の次期教育大綱の新規の柱、ここに何を持ってくるかということが非常に大きくて、この未来志向型の教育大綱に何を持ってくるかによって決まってくるなと、ここは皆さんと本当に議論をして、我々も納得できるものにしていきたいなと感じます。

○市長 ありがとうございました。

今、非常に重要なご発言をされたような気もするのですが、第1期で決まったことというのは、ある面、教育委員会は学校に何回か行きましょう、校長は週に何回か見に行きましょうという、どっちかというやらされ感があったのではないかと。今、逆に言うと、第1期の教育大綱でやらされ感から必要感に変わったという表現を取られましたけど、それはどういう意味なのでしょう。

○服部中学校長会長 当時は私、事務局にいたので、当時の校長先生がどう思われていたのかははっきりとは分かりませんが、回ってみて効果があったということだと思います。若手の先生と対話が生まれ、授業づくりについて意見交換をし、若手の先生の授業が変わった結果、子どもの生き生き感が変わったということが実感できたというのが非常に大きいのではないかなと思います。結果的に学力が少しずつ伸びていったというのは、あったと思います。

○市長 各教室を回ることによって、子どもたちが生き生きしていく、その様子を見て、校長さん方も達成感を感じるようになったという、そういう理解でよろしいですね。

○服部中学校長会長 はい。

○市長 ありがとうございました。

安東さん、お願いします。

○安東小学校長会長 小学校長会の安東です。よろしくお願いします。

これまで大綱を1期、2期としてくる中で、やはり一番思ったのは、学校の先生が同じ方向を向いていったなということだと思います。今までもちろん、こういう教育を目指すのだというものがなかったわけではないけれど、改めて市長と教育長と、それからこういう場で議論をして、全体としてこういう方向性を持ってやっていこうという旗を掲げていったということが、学校の先生方、管理職を含め、授業をしている一人一人に至るまで浸透しやすくなったことであったかなと思います。そこで挙げられてきたことが、1期は例えば非常に具体的なものでもありましたが、こういうことが大事なのだなということをみんなが理解して現実に取り組んでいった流れになっていったかなと思います。

それから、2期でいえば、5つの力を掲げたという点も、これから必要なものはこういうものだということを示して、そのようなことを授業づくりに盛り込んでいかないといけないということを打ち出したので、それが施策だったり指導であったりとか教職員研修だったりに具体的につながって行って、実際の例えば研修も変わっていったり、教育委員会側から学校への指導とかも具体的に変わって行って、授業改善が大幅に成ったかなと思っています。そういう意味で、やはりベクトルをそろえていく、そろえたことによって合力をより強い合力にしていくということが成し遂げられたのが教育大綱としてのこれまでの意義であったかと思いますし、今後もそういうものであってもらいたいなと私も感じるところです。

○市長 また少し言葉尻を取るようだけれども、多分、第1期大綱の前だって、先生と校長さんは同じ方向を向こうと、子どもたちをよくしていこうという気持ちはあったと思うのです。今安東さんがおっしゃっている、そこが変化して、今おっしゃった同じ方向というのと以前の方向とは何が違うと理解をすればいいのでしょうか。

○安東小学校長会長 この教育大綱の内容的なものだけでなく、市長と教育長と行政、市と教育委員会で一緒にこういうふうに旗を掲げてやっていくということが、今まで非常に個人商店的であった学校の先生が、そうではなくて、学校としてこう向かわないといけない、学校が向かう方向は市が向かう方向でないといけないという意識がより一層明確になったかなと思います。だから、それぞれの教員が理想も掲げていましょうし、それぞれの学校もその学校の課題に応じて取り組むことはもちろんこれまでもしてきたし、これからもしていくのですが、全体としてこういうものをしていくのだということが明確になっていった、はっきりして強まっていったということが教育大綱らしいところであった

かなと感じています。

○市長 個人商店から企業に。お互い全体としてどれなりの経常利益を出していくか。その中でいろいろな凹凸はあるものの、そこを全体見ながら、凸の部分はより伸ばし、凹の部分も上に持っていく、それを全体で見えていく、そんなところなのですかね。

今お二人が言われたようなところとは、多分これから必要なところでしょうね。だから、そういう思想的なものは校長さん方が卒業してもやはり残していかないといけないものだということで、こういう新しい施策というよりも、先生の心というか教育界の体制を整理するというのも大綱の上では必要な気がします。

それらを踏まえていただいて、教育委員の3人の先生、もしあったら教育長からもご発言をいただければと思います。

それでは、上西さん、よろしいでしょうか。

○上西教育委員 はい。上西です。

今のお話を聞いていて一番思ったのは、私、上の子が中学3年生なので、市内の公立学校に通っています。ちょうど9年目、小学校からいうと9年目なので、この1期、2期の教育大綱の下で育った子なのだなということで、そこを感じたのですが、教育委員になって4年目になるのですが、特に教育委員になってから子どもとよく話をして、どんな授業かとか、分かりやすいか分かりにくいかと、結構嫌な質問をする親になってしまっているのですが、子どもは、満足そうに楽しく学校に通っていて、後でも話が出るかもしれませんが、職場体験とかのことも楽しそうに話をしてくれて、私としては、うまく回っているのだらうなという印象を持っています。

特に、校長先生と若手の話とかでいえば、私は弁護士ですが、若いときに上から教わったことはすごく残っているので、多分、今の若い先生方が若いときにそういう経験、そういう環境の下で学校の先生として育っていかれたということは、いい循環が生まれるベースができているのだらうなということで、非常に期待が持てるのかなと思っています。

その上で、先ほど教育長も言われた第3期をどうするかというのは、私も今日の議題になっていたのを考えていたのですが、正直なかなか難しい。ただし、ここにある基礎的な学力の定着というのは、これはもう絶対残していただきたいなと。昨今、国全体で少し学力がどうなのかみたいなニュースもあったりしているところもありますので、特にここは気を抜かずにしっかりとやっていただきたいなというのがまず一つ。

先ほども言われた新規のところなのですが、正直あまりいい考えはないですが、私の

イメージとして漠然とあるのは、社会の中で生きていくのだよと、社会の中で役割を持った人間になってくださいというところを、しっかり伝えられる教育の場になったらいいなと。単に学力として独立しているわけではなくて、それは将来役に立つものとしてあるのだよというところが、小学校の低学年は難しいかもしれませんが、高学年、中学校とかになってくると少しそれを意識できるような教育ができればいいのかなと思っています。

弁護士は、今の話とは逆の流れが起きてしまって、ここ十何年かで人数が増えました。我々、私は二十何年目かなのですが、お客さんとの接し方とか書面の書き方とか上の方から教わりました。ところが、人数が増えて、即独立というのですが、教育を受けてない弁護士がすごく増えてしまっています。要するに、雇われるスペースがないので、もう自分でやるしかない、雇ってもらえない。自分で勉強する弁護士が岡山市内もあふれているので、逆の悪い現象が起きているのを目の当たりにしています。不十分な能力の専門職が増えてしまっている。それもあるから余計、先ほどの話とかはいい話だなとお聞きしました。

○市長 中島委員、お願いいたします。

○中島教育委員 私は企業の代表をさせていただいてまして、今のお話で少し驚いたのが、今まさに私どもも事業継承を踏まえて中小企業診断士さんで組織改革というか経営改善を今取り組もうとしているところで、そこでご教示いただいた特に組織の構成の3要素で、まず必ず組織、社員も含めて代表も含めて共通の目的を持ちましょう、方向性ですね、ベクトル。コミュニケーションを取りましょう、貢献意欲、この3つは必ず確固たるものを社員さんにも伝えて取り組んでくださいというのを教わりました。今のお話を聞いていると、方向性だったり、校長先生が授業を見るのがコミュニケーションだったり、あと若手の先生がどう持っていこうかというのは貢献意欲だったり、学校組織とはいえ、企業とやはり組織を構成する要素は一緒なのだなというのを本当に今実感しました。

これから私が組みみなさいというかご教示いただいていることは、各社員全員にアサインメントシートを、あなたはこういう役割なのですよ、それは管理職もそうだし、入ったばかりの人なのだけれども、あなたは会社にとってこういう役割があるから、この一年でそれをどこまで伸ばすかみたいな役割のアサインメントシートを作って面談をして、それを本人も、ではどのようにすればそれが乗り越えられるかというチャレンジシートを作ってもらって、それを中間評価して年度末評価してみたいなことを今課題をいただいています。

でも今のお話を聞くと、先生方も私たち企業も、今まである程度経営者とか管理職がこうしなさいあしなさいみたいな方向性を導いていたのだけど、特に中小企業診断士さんが言うのは、今は本当に働く人がどれだけ意欲を持つか、一人の付加価値がどれだけ上がるかが企業を強くする要素であって、それを導けない企業というのはなかなか難しくなりますよというのを日々教えていただいているので、本当に今、私は昨年9月からこちらにお邪魔したのですが、1期・2期大綱のお話を聞いて、その礎となることをされていたのだなと思って、やはりそこは組織にある形なのかなというのを改めて感じさせていただいた次第です。学校組織も企業も一緒なのだなということで本当に驚きました。

新規の部分に関しましては、もう全く私、教育には素人なので、では企業人からいうと、もっと子どもたちに岡山にある会社のことであるとか企業のことであるとか、結構岡山は世界に名をはせている企業が多いのですが、一般の人はなかなかそれをご存じなかったりもするし、子どもが、岡山ってこういうのがあるよとか、そういうことが普通に認識できるというか会話ができる子どもになってほしいなと思いました。

私の実体験でいうと、私は二十歳ぐらいのときに前職の海に潜る仕事でオーストラリアに住んでいたことがあるのですが、イギリスの友達と会話していたときに、その人はイギリスの田舎町なのだけど、自分の町は人口がこうで産業がこうで、こういうすてきなところがあるよと教えてくれて、では俊子のところはと言われたときに、私は岡山市の人口が答えられなかったのです。やはりそういう認識がなくて、桃とマスカット、果物がおいしいくらいのことしか答えられなくて、私がそうだったのかもしれないけど、そういうのがさらりと言える、岡山市はどのぐらいの人口でどのぐらいの面積で、こういう産業があつてみたいなのが、小さいときからそれが普通に頭の中に備わっていて、何げない会話でもそれが発言できる岡山の子どもたちになってもらえればすてきかなと常々思っています。企業も本当に岡山にはすばらしい会社様がいっぱいあるので、それを知ってほしいなっていうのも思っているんで、そういった部分がこの新規に何か、教育とは関係ないのかもしれないのですが、そういう部分があつたらうれしいなと個人的に思います。ありがとうございました。

○市長 ありがとうございました。

それでは、門原さん、お願いします。

○門原教育委員 私はまだ1年目なのですがけれども、今校長先生方のお話や市長さんのお話を聞いて、1期のときに先生が独立していたのではないかとおっしゃったときに、それ

は結局、学校も独立していたのではないかと思います。でも、こうやって大綱を示して具体で取り組むことによって、校長先生もリーダーシップを持って動く、つまり組織力が高まっていった、そのことで先生が変わって、先生が変われば子どもも変わるという好循環が生まれていったのではないかと思います。逆にお話をお聞きしました。逆に言ったら、教育委員会の組織力も高まったのかという、同じ方向に向かってみんなで進めていくことができたのではないかと、1期、2期を通してお話を聞いて思いました。

今度、3期の話なのですが、教育は不易と流行ということがありますけれども、依然継承としては、基礎的な学力の定着は、これはやっていく必要がありますが、学力という部分を少し、もう少し明確にしてもよいのかな。いわゆる見える学力、点数だけではなくて、例えばこれから多様な方たちと会ったり、多様な表現方法もあるので、いろいろな表現方法を学ぶとか、いろいろなコミュニケーションの取り方を学ぶとか、何かそのあたりのところも基礎的な学力の中に入れていくというのも大事ではないかと思います。しかしながら、本当に学力という部分は継承していく必要があると思います。

それから、新規の部分に関しては、やはり先ほど言われたコンセプトの部分の部分を大事にして、シンプルで分かりやすく、具体的に示していくことで、先生方も取り組みやすいです。そしてそれがどういう数値で表れたりどういうところで見える化していくかということがある程度明確になっていくと、達成感とかそういうこともあるのではないかと思います。お話を聞きました。

○市長 ありがとうございます。

今日は、これからの流れを見ると、この案件で終わるみたいなので、少し教育長にと思ったのですが、その前に事務局、特に教育委員会で、また直接今学校の校長さん方ないしは先生方と最も接触の多い方、どなたでも結構なのですが、ご発言をいただけますでしょうか。その後、違う立場で、もっと客観的な立場から物を言っていただくというのを少しやった上で議論を進めたいと思うのですが、まずは教育委員会、学校の先生たちとの接触の多い立場で言っていただけますか。

○齋藤教育次長 教育次長の齋藤です。ありがとうございます。

私もずっと教育委員会に長くいますけれども、1期から2期にかけて、毎学期、教育長を先頭に、学校に事務局の職員が行って先生と話をし、それから校長先生方には週2回授業を参観していただくということを続けてきたわけですが、私も立場上、校長先生と面談する機会がありましたが、やはり校長先生方はとてもそこに意識を持っていた

いていることを強く感じてきましたし、常に面談をする中で、子どもたちの学力、立ち位置であったり、それから自校の不登校の子どもたちの状況、それはどこに要因があるのか、そういったことをしっかり分析をしながら学校運営をしていただいていることを身をもって感じました。それが今先生方一人一人に根づいているところではないかなと思っています。

○市長 どなたでも結構ですから、教育委員会の方、おられるのであれば。教育の現場からまだ来られたばかりの方もおられるのではないかなと思うのですけど。

○佐藤教育企画総務課企画調整担当課長 教育企画総務課の佐藤です。

私は、1期大綱が出たときには現場にいました。校長先生から大綱の説明をしていただきました。その当時、職員全員が大綱の目標が言えました。だから、若い先生もベテランの先生も、私は当時中堅くらいだったと自分では自覚しているのですが、それに向けて授業もしていましたし、校長先生が回られるのをサポートして教頭先生それから主任の先生も回ってくださったという記憶がございます。ですので、組織力が格段と上がったというのは、当時、現場にいながら実感しておりました。

事務局に来て、2期大綱が出ていきまして、それが継続されているというのも当然実感しております。校長室を回らせていただいても、基本的にはこの教育大綱が掲げられていて、実際にそれぞれの学校の教育計画の中のどこに位置づいているかということも校長先生が意識して説明してくださっていました。ですので、教育大綱でしっかり分かりやすくシンプルに示すっていうのはとても重要なことで、そういう意識、コンセプトは次の大綱にも生かしていただきたいなという思いはございます。

○市長 では、学校の先生ではない、総務局長、いかがですか。

○中原総務局長 総務局の中原です。

教育大綱1期それから2期に目を通させてもらって、本当に分かりやすく、一番の課題である学力それから不登校、子どもの基礎中の基礎について、ここ2期でしっかりと取り組んで、その成果も目に見える形になったかな、数値で表せるというようなこともよかったと思っているのですけど、今度は、少しこれは希望というか、もし次の大綱に入れることができるなら、若干数値には表すことが難しいかもしれませんが、心みたいな、先ほど委員さんから役割であるとか貢献意欲とかそういった言葉も出ましたので、学力アンド何か次の、子どもの心、意欲みたいなものをかき立てられるような、そんなワードが出てくるといいのではないかなと思いながら聞かせていただきました。

○市長 では、教育長。

○教育長 皆さんの意見を聞いていて、2つ思いました。私、平成13年から服部校長と一緒に教育委員会へ入って、この第1期大綱まで、関わっていました。

一つ目は、1期目をつくるときに市長と議論をずっとさせていただいて、当時の反省ですが、岡山市の教育委員会として共通的にこれをしましようという旗を振っていなかったのは事実です。ですから、個人商店と言われたのはそのとおりで、学校自体で考えてやっ
ていて、では教育委員会は何をしているのかという反省は当時かなりあって、こういう旗を振ることになったと記憶しております。これがよかったと思っていますので、これも続けていきたいというのが一つ。

それからもう一つは、補足ですが、当時の菅野教育長が言われていた、学校現場で廊下までしか風が吹いてないという言い方を当時されました。教室に風が入っていけないのだと。ですから、学校現場で、市長が言われるように、本当にこれしようあれしようと言っていたのだけど、教室まで浸透していないという反省が当時思い出されます。それを教員一人一人に共通理解してもらおう我々が訪問したり、校長が授業を見たりすることで、本当に同じベクトル、同じ目標へ向かって市全体が、結果として成果が出たので、みんな成功体験として自信を持って、これでいいのだという手応えを感じたのだと思います。それが今、好循環で、特に中学校は当時、かなり学力的に厳しかったですけど、動き出したら中学校のほうが一気に歯車が回った記憶があります。

それはこれから続けていきたいと思いますが、今日、中島委員の話を聞いていて、政令市になった後ですかね、大綱の少し前だったと思いますが、学校現場にも評価制度が入ってきました。今、普通に評価制度を行っていますが、その前は、評価制度は学校になかったです。私も学校現場へいてよかったのは、期首面談と中間と最後、3回面談をします。大規模校だったので、4月は学年団と管理職で、今年岡山市の方針があって、学校の方針があって、学年団で今年何をするのだっていう議論をしました。中間で、今度は個人にどこまでできているのだという、最後に面談がありましたけど、あの学校現場の評価制度も、ある意味、うまくいっている要素の一つではないかと思うのですが、またどこかで今の学校現場の校長先生方にもそこは聞きたいんですけど、評価制度が入ることに相当反対意見はありましたが、入って見たらよかったという記憶があります

○市長 なかなかすばらしいキーワードが結構出ているのではないかと思います、私が言いたかったのは、これまでの6年間は何だったのかというのを分かりやすく説明し

とかないといけないのではないかとということです。いい点だけではないはずなので、悪い点もあったはずですから、そこを抽象的に整理するのではなくて、今例えば服部さんが言われたように、校長の気持ちもこう変わったのだと。それが安東さんも同じ、同じ方向という表現でやられているので、それが何でできたのかということをやはりきちつと後世に分かるように残しておく必要があるのではないかと感じました。

それから、社会の一員、上西さんがおっしゃっている社会貢献というか、自分もその中の一人として役割を担うという意識はやはり必要不可欠だろうし、こういう混迷の度を深めている世界の情勢の中で我々として何をしないといけないのかということもあるだろうし、そういう一つのキーワードと、中島さんがおっしゃった、いろいろコミュニケーションの話もあったりしたのですが、岡山の人口が分からなかったというお話で、それぐらい知っていてもらったほうがいいかなという気もしますが、それよりも、要するに我々が生まれた、ここで生まれた、この地域とは何だというのは、やはり子どもたちにきちんと理解しといてもらう必要はあるような気がしますよね。

それから、門原さんがおっしゃったのは目からうろこのところもあって、学力とは何だと。そのところは、通常の何とか試験をやっている対象が学力なのかというのではないということもありますよね。それが整理できるのかどうか分かりませんが、その議論というのもそれはやっておかないといけないのかなという感じがいたします。

取りあえず、出てきた意見を整理してみるとそんな感じなのですけども、何かさらに付け加えることなどあればご発言いただきたいと思います。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 では、資料の④をお願いします。

○教育長 はい。ありがとうございました。

それでは、新しい取組についての説明を、たたき台の話をさせていただきます。

資料④をご覧ください。

この資料は、第1回総合教育会議での皆様からのご意見や昨年度の総合教育会議における現行の大綱の総括を踏まえて議論した上で示しております。

まず、左側に示している1期・2期大綱、先ほど説明したとおり、目標はおおむね達成していると考えています。

中央上に示している緑色の点線で囲っている部分、これからの岡山っ子に必要なもの考えたときに、考える基礎となる学力、これは議論が要るかもしれませんが、当然これか

らも必要であることから、学力は現行の大綱を継承していきたいと考えています。

新規の内容ですが、先ほど市長からもありましたし、今までの議論でもありましたが、「地域社会とつながり、貢献しようと思う心」を提案したいと考えております。その根拠になりますが、まず資料④の中央下、国の教育振興基本計画のコンセプトでも、そして時代の潮流からも、キーワードは自己肯定感、地域への愛着・誇り、社会貢献意識などがキーワードとして出てきています。

次に、参考資料を示しておりますが、この参考資料の④－１をご覧ください。

これは経産省の資料になるのですが、国際的な目でも子どもたちを見たいということで、参考資料を示しております。OECD加盟国の生徒の学習到達度調査PISAの結果では、日本の子どもたちの学力は世界のトップレベルにあります。

次に、参考資料④－２、学力を活用する力が十分生かされていない、学力はトップレベルではあるがその学力が十分に生かされていないという結果が出ています。このあたりは、学力を議論するときに話題になるデータかもしれません。

次に、参考資料④－３、探究を基にした学びの機会が乏しいという分析がなされています。国際的には理科が共通的に見ることができるので、理科だけで書いてありますが、どの教科もやはり探究を基にした学びの機会が日本では乏しいのではないかという分析です。

最後に、資料の④－４です。ここでは、日本の18歳の社会への当事者意識が低いという実態が浮き彫りになっています。自分は大人だと思う、自分の行動で国や社会を変えられると思う、自分は責任がある社会の一員だと思う、全てにおいて、他の国から低い数字となっています。

これにつきましては、岡山市の子どもたちについても同様ではないかという認識を持っております。したがって、これからの時代を担う子どもたちには、基礎学力の保障に加えて、自信を持って様々なことに挑戦して、社会との関わりを認識し、自分の役割を自覚し行動できる力を育成する必要があると考えております。

そして、これまでの総合教育会議での議論も含めて、資料④に戻っていただきたいのですが、これからの岡山っ子に必要なものとして、新規に「地域や社会とつながり、貢献しようと思う心」を提案しているわけでございます。その流れの中で、資料右側、第3期大綱について、柱の一つが基礎的な学力の定着、新規に行うものとして、岡山市への愛着と誇りの醸成とするのはいかがかと考えております。

また、参考資料に移りますが、参考資料の③、岡山市の子どもたちへのアンケート調査の結果、そして第1回の総合教育会議の資料、皆様からのご意見によりまして、ただいま提案した学びを推進するためには教員の資質能力の向上は必須である、子どもたちも先生に分かりやすい授業をしてほしいというパーセントが最上位になっております。このあたりで、教員の指導力・授業力の向上についても必須ではないかということでプラスアルファとして教員の指導力・授業力の向上も加えて第3期大綱に加味していきたいと考えております。

以上が教育委員会としてのたたき台でございます。結論は今日出ないと思うのですが、様々なご意見をこれについていただければと思います。よろしくお願いします。

○市長 ありがとうございます。

資料の④-1と④-2の、ここで言う数学とか科学、理科というのは定義は一緒なのですか。

○教育長 国際的に共通的に比べるにはこの教科の2つしか共通的でない聞いております。

○市長 分かりました。

岡山市への愛着と誇りの醸成、中島さんがおっしゃったようなことがこの中にも書いているのですが、もう一度若干同じような話になるかもしれませんが、あとは自由にご意見をいただければと思いますが、どうでしょうか。

では、安東さん、どうぞ。

○安東小学校長会長 安東です。

ここに今示されている方向性というのはすごく納得できるものかなと私は考えています。やはり子どもは社会の中でこれから生きていく人なので、社会とどのような関係性をつくっていけるのかということ自体を身につけていくことが学校教育において一番大事な事かなと私は思っています。だけど、今までの教育があまりにも実験室的というか、要するに学びが学校とか学級の中に閉じたものになっていたのではないかと感じます。このことができる、このことが分かるということだけではなくて、社会との関係の中で学ぶということが足りなかったりとか、それから社会から刺激を受けることが足りなかったりとか、学んだ成果を社会の中で生かすということが足りなかったりとか、そういうことから、子どもたちが学びというものと自分の社会との関係性というのを築くことが残念ながら今まで十分でなかった部分があったのではないかと感じています。そのことから、ここ

では岡山市への愛着と誇りの醸成と書かれていますが、子どもたちが社会との関係づくりをしながら学んでいくということを今後重視していくような教育活動が大事かと考えています。

もう一点は、それをつくっていくときに、多分、発達段階というものがあって、小さい子どもだったら例えば家族との関係とか同じクラスの子どもとの関係とかいうのが社会との関係かもしれません。それから、学校全体に貢献するとか、自分の町に貢献するとか、発達段階に応じて子どもたちに関わらせていくようなことをしていくと、このことは実現し得る教育計画になっていくのではないかと思います。貢献という言葉が大きいかもしれませんが、例えば地域のことを調べるとか、自分が作った作品を地域に飾るとか、それから地域の人と一緒に演奏会をするとか、いろいろな形で地域とのつながりをつくっていくと、地域とつながる、社会とつながることは大事だなと思えるようになるのではないかと思います。それがひいては恐らく将来的なシビックプライドであったりとか、社会参画ということの育つ基礎として小学校でやるべきことになっていくのではないかと感じているところです。

○市長 ありがとうございました。

ほかにどうでしょうか。

はい、服部さん、どうぞ。

○服部中学校長会長 まず、市長が先ほどおっしゃられた、これまでの6年間は何だったのかっていうことで、お話を伺いながら思ったことを一つだけ言わせてください。

地教行法が変わって、市長が教育長を任命することになり、それから教育大綱をつくることができるようになりました。それまでは、全ての自治体が市長部局と教育委員会とに分かれて、教育委員会は独立でした。私が三宅教育長と市役所に入った平成13年は、悪い言い方をすれば、事務職である市役所の方と教員籍である我々が分かれていました。これを考える、これをするのは事務の方、これをするのは我々教員籍と分かれていました。それが6年前に制度が変わって、事務職の方と一緒に話をするできるようになった、これは非常に大きかったなと思います。

それから、学校の中も、それまでは、国語は国語の先生だけで考える、生徒指導は生徒指導の係だけで考えるというものが、この教育大綱が出ることによって、教科の壁を越えて垣根を越えて、それから係の垣根を越えて、学年の垣根を越えて、みんなで一緒に考えないといけないなというふうに私は変わったように思います。そういうところがこの1

期、2期の大綱の一つの成果だったのではないかと改めて感じました。

それから、第3期教育大綱に向けて2つ。

一つは、プラス教員の指導力・授業力の向上というところはこれで私も大賛成なのですが、もう一つこれに加えるとすれば、コミュニティ・スクール。地域協働学校に、令和2年度に岡山市全校指定になったと、地域や保護者の方が学校運営に参画をする仕組みになったというのをぜひ生かして、地域について学ぶ、地域と共に歩む、そういう子どもたちを育成していくような仕組みに、プラスアルファのところに何か少しその要素が加わったらいいなと思いました。

最後に、もう一個。岡山市への愛着と誇りの醸成、これも私も賛成なのですが、その中の視点に、共に生きるってということ、共生社会を目指すっていう、障害があろうがなかろうが、外国人であろうが日本人であろうが、どんな人でも岡山市で共に楽しく明るく元気に暮らすことができる町を目指す、そのために子どもたちにどういう力を身につけさせればいいのかというのを考える、そういうことが必要ではないかな。原点は人権教育、一人一人を大切にする、岡山市はそういう町だと私は自負しているのですが、人権教育をベースにした共生社会を目指す岡山市になってほしいというイメージはどこかに入れ込んでいただきたいなと思います。

○市長 ありがとうございます。

ほかにどうでしょうか。

上西さん。

○上西教育委員 岡山市への愛着と誇り、賛成しますね。子どもは、まだ何者でもない存在が少しずつ土台をつくって行って、自信をつけたりして行って人格を形成していくものだろうと思います。その過程で、経験とか達成感とか、褒められたり承認されたり、いろいろなことを経て自立していくのだろうと思うのですが、その中で、どういう背景というか、環境もそうだし、習慣、慣習とかもそうだし、そういったものの中で生きてきているのかというのを少し意識させるのは非常にいいことかなと。そういうものをつくっているのはやはり歴史的なことが大きくて、風景にしたって習慣にしたって、その辺とどうしてもつながってくる話だと思うので、地域とか岡山とかそういうところの歴史を少し教えてあげて、君はこういうところで生まれて育ったのだよっていうことを土台の一つにしてあげるのは非常にいいことかなと思っています。

○市長 どうですか。

○中島教育委員 失礼いたします。

私はやはり岡山の企業なので、そういう岡山の企業とかを知っていただくことがあったりして、この愛着と誇りというのは本当に大切なことで、これから子どもに備わってほしいなと思うのですけれども、今のお話から、それぞれ地域によって、例えば古墳が多いこととか歴史があることとか企業が多いこととか、いろいろ特色があると思うのですけれど、それは地域の人とかから教えてもらったり自分たちが学んだりすることでもいいのですけれど、その次のステップとして、私は子どもたちがそれを発表する場であったりとか、学んだことを自分たちの地域はこうなのですよという発表をする場を、学校だけとか例えば公民館とかではなくて——少し勝手なことを言っているのですが、ハレノワ劇場とか、そんなところで子どもたちが楽しく発表できるような場。やはりそういう目標を持つことによって、学んだことももっと楽しみを持って追求できるのではないかなと思っていて、インプットも大事なのだけど、アウトプットすることによって、よりその記憶というか向学意欲というか、学ぶことの思いが高まるのではないかなと思って、そういう楽しみを子どもたちが、あれば私も見に行きたいし、みんな見に行きたいのではないかなと思ったりして、実現していただければありがたいです。

○市長 こうなると、門原さん。

○門原教育委員 先ほど学力のことがありましたけれども、やはり1期や2期とは違う、少しステップアップした学力の定義はそこで考えることが大事なのと、新規のことなのですけど、少し引っかかりがあって、「地域や社会とつながり」、ここはとてもいいのですけど、「貢献しようと思う心」でよいのかという話で、なぜなら、資料の②-1で、第1回の総合教育会議のところで、2番目、他者との関わりに関する数値が低い、だからここはいいのですけど、実践力が十分ではないということがもう出ているので、ここはもうこれからの5年間は「貢献する力」とぐらい言い切っていただきたいというか、しようと思うのだったら思いは形にしないといけないので、実践力のところは大きく出してもよいのではないかなと思いました。

3期大綱のところなのですけど、ここの中に課題解決型学習をぜひ入れていただいて、やはり体験を通して課題を設定して情報収集、整理分析、まとめ、表現といった、そのプロセスを大事にする。結果や出来栄とかそういうものではなくて、そのプロセスを大事にする教員であったり子ども同士であったり、認め合いができると協働的にもなりますし、PDCAサイクルをずっと回していける。そういう子どもになると、次に自分は何を

しょう、次何をしようと探究的にできていくのではないかと思いますので、学力というか、見える学力だけ追求すると本当にゼロか100かという世界になって、肯定感も下がっていきますから、そうではなくて、少しできたこと、少しよくなったことを互いに評価することができたらよいと思います。

それから、岡山市への愛着と誇りも、すごく私は大事だなと思っていて、低学年、発達段階がありますけれども、小さいときに、帰りの会でよいところを見つけをしましょうと、まず周りの人のよいところを見つける、そして自分も見つけてもらう、家族だったり周りの友達だったり先生大好き、学校大好きという気持ちを養っていった、そしてそれから地域に広がっていった、高学年だと歴史を習うので、時間や空間の広がりを持って、そういうことにも目を向けて、ではその中で自分は何ができるのかということを考えることができたらずごくよいかと本当に思っています。総合的な学習の時間がありますので、そこを活用していくことと。

それから、服部先生がおっしゃった、私もコミュニティ・スクールはこれは岡山市の目玉、100%実施されていますから、これを活用して、熟議を地域の方としていった、本当にその学校がオンリーワンだと自分たちが言えるようなところからまずできたらいいかなと思います。岡山市で、私の学校自慢大会とかオンリーワンの学校紹介とか、何かそういうことができ、他へ発信する場面も、ポスターを作ったら市役所に飾るとか公民館に飾るとか、何かそういうこともできると、子どもたちも、やったことが他へ発信できてみんなに評価されるということも大事かと思ったりします。中学生の集いとか小学生の集いとか、そういうことも市全体でできたらありがたいかなと思っています。

○市長 教育現場にいた方、先ほどは佐藤さんが言いましたが、ほかに我もと思う方がいたら、指名しませんから、誰か手を挙げていただけますか。

はい、どうぞ。

○村尾教育研究研修センター所長 教育研究研修センター所長でございます。

この資料の④の右下の、プラスの教員の指導力・授業力の向上は、まさに教育センターが主に関わる主体になるころだと思います。令和9年度に向けては、新しい教育センターでまさにこの拠点となるような場所ができますけれども、それに向けても今からいろいろやっていかなきゃいけないなというふうに思っています。

新センターのことはまた新センター整備担当課長がこの後お話をしますので、そこに書いてある若手教員の育成というところはもともと掲げているもので、その下にある大学連

携というのが新センターに向けて大事にしているところなんですけど、一つは、今やっていることが、結局、さっき服部先生が言われた、学校で直接授業を見てその授業について言ってあげる、いわゆるこれが校内の研修だとしたら、我々がやっている初任者研修というのは校外の研修なのですけれども、本当にその研修でやったことが学校に帰って生かされているかというのはなかなか見取りができていませんでした。それを岡山大学と連携をして、評価の仕方、アンケートを変えてみようということで、いつもだったら研修の後に1回だけアンケートを取っていたものを、研修から二、三か月後にもう一回その対象の初任者や3年目の人に聞いてみて、要は研修でやったことが生かされたかというようなデータを取りました。

すると、生かされている人と生かされていない人がいて、ではどうして生かされていたのかという、3年目の教員に直接話を聞くと、帰った後にその研修で学んできたことを学校の先生に話をしていると。例えば、校長先生に話をすると。すると、プラスアルファで学びがあって、それはこう生かしたらいいのではないのとか、あなただったらこうすればいいのではないのと、そういうような、要は校外の研修が生かされるようにするための、それも定量的な評価だと思うのですが、そういったところを大学との連携でやったりとか、3年目の先生がそうしてやってきたことを今度また初任者の先生に話してあげて、3年目の先生がロールモデルになるような、そういうようなくま循環していくような取組を今後も続けて大学連携でやっていきたいなと思っています。

○中舗新センター整備担当課長 新センター整備担当課長です。

私は、安東校長先生が、これから子どもは社会の中でどんな関係性をつくっていけるかが大切と言われたことが非常に胸に刺さっておりまして、実は言い換えると教員もこれが大切なのではないのかと思っています。教員が社会の中でどんな関係性をつくっていけるか、教員の学びが学校の中に閉じられているのではないか、教育界の中で狭くとどまっているのではないか。教員こそやはり学びを社会に生かしたり、子どもたちが社会と関係性をつくっていくことができるように教員ができなければいけないのではないのか、そう思いまして、企業連携、研修の中で企業と連携して、例えば教員研修で会社の企業の職員と一緒に研修をしてみるとか、そういう研修も必要なのではないのかなというふうに考えております。

○市長 すばらしい意見がどんどん出てきていますけど、教員を客観的に見る側として、どうですか、誰かいませんか。

では、教育長。

○教育長 ありがとうございます、いろいろと。

私の中では、本当にアウトプットというところが大事だなと思いました。先ほど村尾も申しましたが、やはり学んだことを発表することで定着していくというのはあると思うので、アウトプットの機会というのは今後しっかり考えたいなと思っています。

あと、コミュニティ・スクールについては、実は学校運営協議会というのが各小・中学校にありまして、今年の発表の中で、子どもたちとその学校運営協議会の方が、うちの学校をよくするためにどうするかという取組をした学校があります。非常によかったということで、全体の会で発表していただいて、これから増えるのではないかと考えているので、そういったことも、手段としてですけど、いろいろな手だてが取れるなと思って、個人的には夢が広がっているところであります。

○市長 ありがとうございました。

すばらしい意見がいっぱい出ましたけれども、若干反論的なものも含めて話をしたいと思うのですが、今の議論は大体、岡山市の教育のビフォア・アフター、ビフォアが6年前、そしてこの6年間の議論に終始しているところがあって、服部さんは、法律が変わってこういうふうになった、だからよくなったのだみたいな話はあるのですが、我々の縦系列だけ見ては駄目なのではないでしょうかね。横との比較で一体どうなっているかというのを常に見ていかなければならない。

第1期大綱のときには、偏差値が本当に低かったのです。これは子どもたちが普通に、岡山の子どもたちが劣るわけではない、先生たちも倍率も非常に高いところを通ってきている、これは一体何なんだというところから議論が始まったわけであり、そういうことから見ると、他の地域というのはその前からちゃんとやっていたのです。それが先生との関係という、校長と先生、教育委員会と学校という関係がどうかは別にして、やはりそれに整理ができていた。それができていなかったのはなぜなのかという、その反省というのはあつてしかなるべきなのではないかなというように思います。

それで、これからどうしていく、それもやはりきちっと我々としては記述すべきだと思うのです。ちなみに、6年より前にも私が市長をやっていましたから、私の責任でもあるわけなので、そこをきちっと整理をしていくことが重要だろうと思います。それから、今度は次のステップをどうするかということになっていくのではないのかなと思っています。

社会とのつながりが、皆さん方おっしゃられました、私もそのとおりだと思うのですが、社会とのつながりと何なのだと、具体的にどうするのだというのがやはり整理されないと、そこもそれぞればらばらに動いていく。統一的に動く必要はないかもしれないが、しかしながらやはり具体的に動けるようにしとかなければいけないのではないかというように思いました。

私は霞ヶ関で長くいたので、地元への愛着とか誇りみたいなものは各地域相当に差があるというのを感じているところであります。今の商工会議所の会頭の前の商工会議所の会頭が福岡から来られているので、岡山はお国自慢しないところだと言われていました。私も、各都市を比較して相対的にそうだと思います。それは一体何なのか、なぜなのかというところが一つまずあるのではないかと思うのです。

上西さんがおっしゃったように歴史というのも一つだし、愛着の一つとしてスポーツというのも結構大きいですね。ファジアーノが柏レイソルとガンバ大阪に連破しただけで心が躍る、そういうのも大きい。岡山に阪神タイガースも広島カープもない、そういうものを今度は今プロスポーツで経験させてもらっているという、そういうのもあると思うのです。お国自慢すればいいというわけではないけど、やはり地域を愛するというか、地域を好きになることによって得るものはいろいろとあるのではないのかなと。ではそのためにどうするかという具体的な話も大綱の中には整理したほうがいいのではないかと思います。

それからあと、これは中島さんがおっしゃった発表するというの、私この前にすばらしい体験をしたのですけれども、実は11世紀の後半に源平合戦のときに平重盛っていうのが東大寺を焼いてしまうのですよね。東大寺を焼いて、その東大寺を再建するという話になったときに、東大寺の瓦を今の瀬戸の万富というところで一手に焼いた、それを私がたまたま瀬戸で話をしたのです。それは、そもそも古代吉備の時代から吉備豪族の一つが上道（かみつみち）という部族がいて、旭川よりも以東、吉井川よりも以西の地域を持っていた。そこはだから渡来人が吉備豪族というのは相当入っていますので、テクノクラート、いわゆる技術はあったと。粘土とか木材とかこういうのもそろっていたので、そこから瓦を焼いていった。そこに人として出てきたのが重源というのと、岡山が生んだ栄西というのがやって、大きな当時の影響力を示していく、これが宇喜多にまたつながっていくというような話をしたのですけれども、そうすると、それから2か月か3か月たった後に瀬戸中学の子たちが発表したのです。これが中学生かと思うぐらいな発表をされて、最後のコ

メントが一番よかった。これは我々だけで持っていてはいけないと、次の中学生といふか在校生につないでいきたいというような話をされたのですが、おっしゃるように、多分その子たちはもう一生忘れることがない体験をしたのではないのかな、発表する場みたいなものは非常に重要なのかなという感じはいたしました。

それから、教育センターの方がお話しされた、私も企業、大学と連携した研修とはいいい思うのですが、ではそれで何が変わるのか、具体的にどういう指標をつくっていくのか。アンケートを変えるとおっしゃったので、それが出てくるのかもわかりませんが、具体に見える、全てが見えるわけではない。確かに門原さんがおっしゃったように、学力だって見える学力だけではない、それはそのとおりなのだけど、でもやはり見えるものもあっていいということを私はやっていただきたいなという気がいたしました。

これが私の感想で、第3回に向けて皆さん方の意見を踏まえながら次のステップに持っていきたいと思っているのですが、あと5分ぐらいあります。何か意見があれば。

はい、安東さん、どうぞ。

○安東小学校長会長 失礼いたします。

先ほどの話の途中で、社会のために何かしてみたいという心という話があったと思います。確かに心だけではなくて、恐らく力も一緒にセットなのだろうと私も思いました。

一つは、地域が好きというふうな郷土愛とか愛校心とか家族愛のような性質のものだろうと思います。もう一つは、自治意識とか自治力といった、そういうふうな、自分たちで自分たちの生活をつくっていくのだという、この心と力がセットなのだという説明をすると、具体的な取組ができやすくなるかなと思います。例えば、町のよいところを知るところは心に多分関係あるのだと思いますし、自分で生活をつくる、自分の町をつくるというのはきっと児童会活動や生徒会活動に関係が深くなるのだろうなというふうに思いました。

もう一点は、研修の話で、さっき企業とか大学の話が出たと思います。それならば、もっと地域を知るという意味で、例えば福祉援護課の人の力を借りて、民生委員さんとか主任児童委員さんについて教職員がしっかり学んで、どんな取組をしているのかということをも市長部局と学校との連携の中で行っていくとか、あとは地域子育て支援課などと連携して、例えば子ども・子育てNPOであったり子ども会であったり、そういうことについての理解を深めるとか、いろいろな意味で具体的に地域社会というものの理解が深まるのではないかと思う。また、その指標としては、そういうふうな学んだことが実際に学校の教

育活動として取り入れられたかみたいな指標を置くことが可能になってくるのではないかなというふうに、具体的に考えたときに思いました。

○市長 ありがとうございました。

何かありますでしょうか。よろしいですか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長 では、今日の意見を整理していただいて、齋藤さん、佐藤さん、次にまとめてくださいね。よろしくお願いいたします。

では、今日はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

次回の会議は、改めて通知させていただきます。

以上で令和7年度第2回総合教育会議を閉会します。

本日はお疲れさまでした。

午後4時55分 閉会